

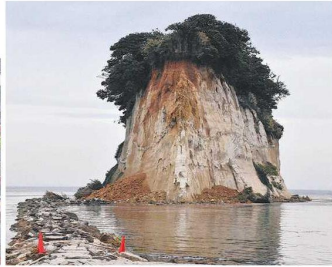
能登の群発地震

その仕組みは？

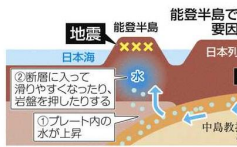
石川県の能登半島のある珠洲市で五月に起きた震度6強の地震は、五日に発生し一日も続かなかった。同半島では、同じ地域で集中的に発生する「群発地震」が数年前から続いているが、今回は最大規模の先月十一日、政府の地震調査委員会は「一連の地震活動の要因について」を報告した。

群発地震は、前震、本震、余震の区別がはっきりせず、ある地域に集中的に多数発生する。能登半島では二〇一八年ごろから地震の回数が増え、二〇二二年一月ごろ活動が活発になった。同月から先月十一日までに観測された震度1以上の有感地震は四百九回、五日の地震マグニチュード(M)6.5で最大となった。

震度6強から1カ月



◎地震で一部が崩落した見附島
◎地震で倒壊した建物
—いずれも石川県珠洲市で—



断層に入り込む流体 要因か

群発地震の要因とされるのが、地下にある流体だ。京都大防災研究所の西村卓也教授(湘地学)は「地下から上がってくる流体が断層に入り込んで滑動の原因になっている」と指摘する。

群発地震の最大の特徴は、頻発する地震の要因とされるのが、地下にある流体だ。京都大防災研究所の西村卓也教授(湘地学)は「地下から上がってくる流体が断層に入り込んで滑動の原因になっている」と指摘する。

群発地震は、前震、本震、余震の区別がはっきりせず、ある地域に集中的に多数発生する。能登半島では二〇一八年ごろから地震の回数が増え、二〇二二年一月ごろ活動が活発になった。同月から先月十一日までに観測された震度1以上の有感地震は四百九回、五日の地震マグニチュード(M)6.5で最大となった。

鳥居の安全性確認を

今回の地震では神社の鳥居が多く倒壊した。鳥居の安全性について、建築基準法には明確な規定がなく、安全性の確認は自治体や所有者に委ねられている。専門家による全国的な基準の必要性を指摘する。

「まわりの倒れは、高さ八・八の鳥居が倒壊した珠洲市の須須神社で、権禰宮の多田千鶴さん(81)は言葉交わした。鳥居が倒壊したのは、鳥居の安全性を確認する必要がある。専門家による全国的な基準の必要性を指摘する。」

「まわりの倒れは、高さ八・八の鳥居が倒壊した珠洲市の須須神社で、権禰宮の多田千鶴さん(81)は言葉交わした。鳥居が倒壊したのは、鳥居の安全性を確認する必要がある。専門家による全国的な基準の必要性を指摘する。」

多数倒壊 具体的な規定なく

県が「四尺超」を適用し、他の八尺は「五尺超」に分類していた。しかし、その高さに達しない鳥居の安全性の確認は、所有者や設置者の責任に委ねられている。同法は一九七〇年代で、それ以前に建てられた古い鳥居は適用外となる。

鳥居は不特定多数の人が行き交う場所であり、倒壊すれば大けがにつながる危険がある。元国土交通省職員で建築大検の安藤高一教授(67)は「地震で倒壊した鳥居は、人は心理的に、かきつらなくなる。よちよちの足で歩いてしまふ。できるだけ四尺超を統一して判断し、安全性をチェックする必要がある」と話す。



崩れた須須神社の鳥居—石川県珠洲市で—

福井地震(福井市)



福井地震で、猛火に包まれる倒壊家屋
CBCテレビによる動画はこちら

市街地激震 震度7の契機に

一九四八年六月の「福井地震」は、東日本大震災(二〇一一年、阪神大震災(一九九五))に次いで、戦後三番目に多い二千七人以上の犠牲者を出した。

水田が広がる福井県坂井市丸岡町に「福井大地震震源地の碑」が立つ。この下、十数メートルニシユート(M)7.1の地震が起き、福井平野で大きな被害が出ました。この名屋大震災連携研究センターの飛田浩二(41)は「地震工学」が語る。被害が集中的に発生する都市圏下地震で、三万四千棟以上の家屋が全壊。当時の震度は6までしかなく、この地震をきっかけに震度7が設けられた。震災復興に向けた「市街地を激震が襲った。羽二重研で有名な和菓子店「福梅堂」(福井市順化の会館前)も倒壊した。福井市順化の会館前も倒壊した。福井市順化の会館前も倒壊した。福井市順化の会館前も倒壊した。



次回の「備える」は7月3日の予定です。「か」からため防災のコーナーでは、読者の皆さんから寄せられた作品も紹介します。楽しみにしていてね!

